



# 『鹿嶋力』 見つけた

市長エッセー No.75

## 課題解決に向けて最良の対策を

先月5日、日本製鉄株式会社が中長期経営計画を発表しました。その内容は東日本製鉄所鹿島地区の高炉などが令和6年度末を目途に休止するというもので、本市にとって大変衝撃的でした。皆さんの生活に直接、または間接的に影響が及ぶことが考えられ、茨城県や近隣市とともに、近い将来の不安をできるだけ払拭できるよう、最良の対策を講じていきたいと思ひます。

また、もうひとつの課題は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策となるワクチン接種です。

本市では、国のワクチン接種事業を円滑に実施できるよう、先月21日に、大野ふれあいセンターで集団接種(大野区域)のシミュレーションを行いました。

当日は、鹿島医師会の医師・看護師・薬剤師の皆さんや



▲シミュレーションで、事前に課題などを洗い出しました。

はまなす民生委員児童委員連絡協議会の皆さんにご協力をいただき、本番さながらの実演で、動線やレイアウト、一人あたりにかかる時間などを確認・把握することができました。今後、課題を整理し、安全かつ円滑に接種できる体制を構築していきます。

接種シミュレーションにご協力いただいた皆さんには、問題点などの提起・解決に向けて意見交換していただいたことに、改めて感謝を申し上げます。

本日から新年度が始まり、市としても、これまでの行政のあり方を抜本的に改革すべき新たなステージを迎えていると感じています。現在策定している、市の指針となる次期総合計画の検討過程で、これからの時代に対応していく「新しいまちづくり」を見出していきます。



## 古川博士の 気象コラム

古川武彦…理学博士。元気象庁予報課長、札幌管区気象台長。退官後に「気象コンパス」を立ち上げ、気象の啓発活動などを行う。

今年は、2月から続いた陽気で桜の開花が記録的に早く、城山公園もすでに満開に近い状況です。気象台では開花は「標準木」により観測を行っており、茨城県では水戸気象台構内の「標準木」の桜5～6輪開花すると開花発表となります。

満開の城山公園を散歩しながら、ここの桜が「標準木」となり、開花日を当てるイベントが生まれれば賑わいも一層になると思ひながら、花びらを掌に受けました。

ところで、気象庁では、桜の開花以外にも、紫陽花・チューリップなどの植物やウグイスの初鳴き、トカゲの初見など動植物約60種類の観測も行っていたのをご存じですか？これは生物季節観測として昭和28年(1953年)から行われ、季節の変化や自然界の異変を観測することが目的でした。水戸気象台でのウグイスの初鳴きは、観測開始の同年



▲昨年の城山公園の桜。今年の桜まつりは中止になりました。

は2月26日、令和元年(2019年)は3月19日でした。平均値は3月9日ですが、最も早い観測は昭和32年(1957年)2月5日で、最も遅い観測は昭和61年(1986年)4月3日でした。初鳴きの観測とは、「ホーホケキョ」と鳴くウグイスの声を気象台職員がその年に初めて聞いた日です。気象台構内にウグイスが飛んで来て鳴くか鳴かないか、ウグイスの気分次第。気象台職員が、ウグイスをじっと見つめ、耳を澄ませている姿が想像できますね。残念ですが、今年1月から生物季節観測は、植物観測のみとなりました。

さて、春はシベリア大陸からの寒気と南の暖気がぶつかり合って低気圧が急速に発達し、花を蹴散らす嵐となりかねません。まだ花冷えや霜も降りる季節、入学や就職で環境も変わりやすい時期です。体調の管理にも気を付けてください。